

平成27年上半期の野菜の輸入量は、前年同期比6.6%減の135.2万トンとなったが、直近の4～6月期は、国内の天候不順と作柄不良の影響等から、1～3月期に比して12.4%増加した。

類別に見ると、冷凍野菜を除き減少しており、このうち生鮮野菜は前年同期比9.8%減の46.7万トンとなった。減少した主な品目は、ブロッコリー（同43.8%減）、結球キャベツ（同43.7%減）、ごぼう（同19.1%減）、たまねぎ（同13.5%減）等であった。

このうち、ブロッコリーは米国西海岸の干ばつや港湾ストが、また、輸入の過半を占めるたまねぎは北海道産の潤沢な出回りと中国国内の残留農薬検査の徹底等が、それぞれ影響したとみられる。

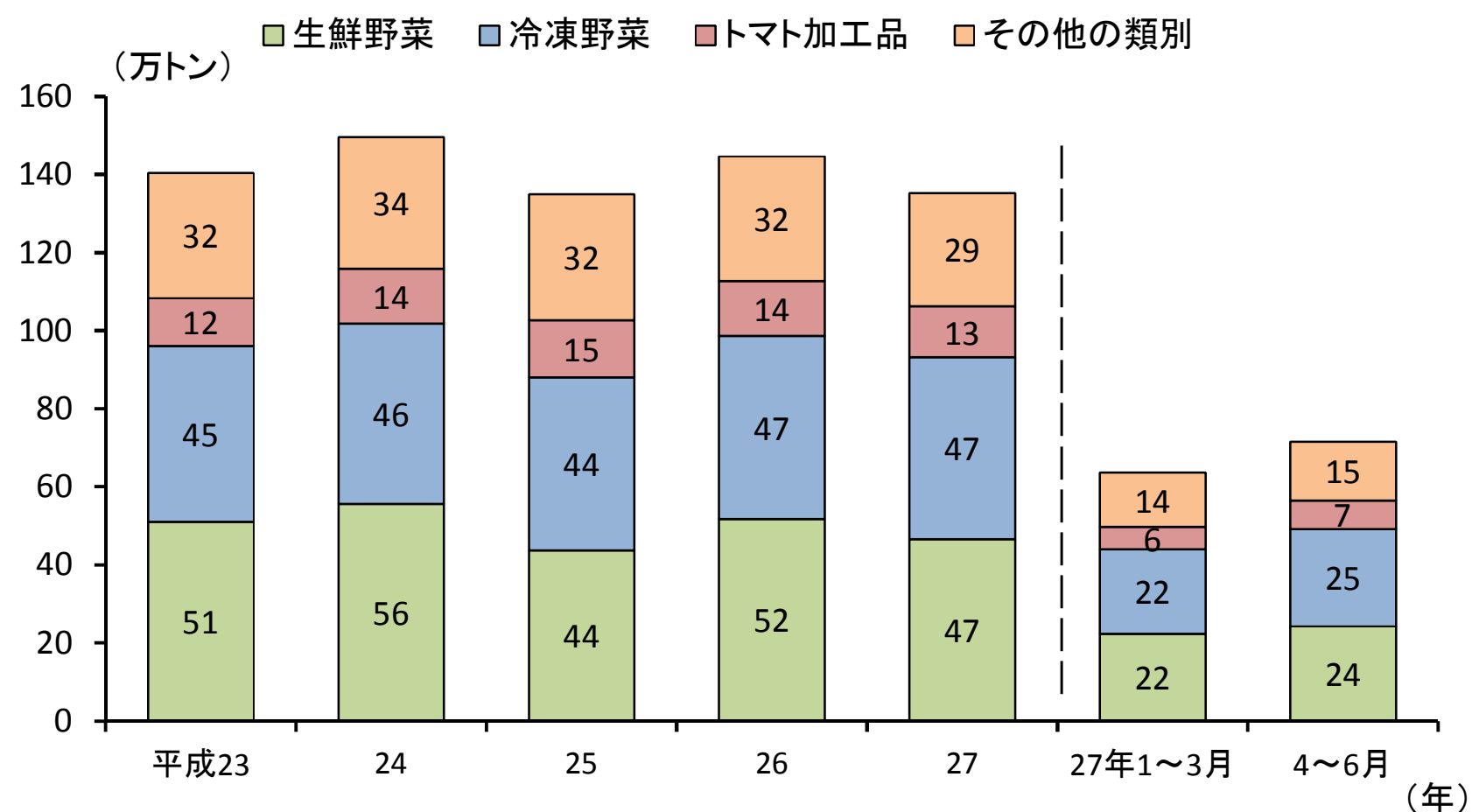
一方、冷凍野菜は、前年同期比0.7%減の46.6万トンとなり、最近ではほぼ横ばい傾向である。増加した主な品目は、スイートコーン（同13.0%増）、ほうれんそう等（同6.3%増）、ブロッコリー（同5.0%増）である。

次に輸入金額を見ると、前年同期比5.6%増の2511億円となり、類別では最近は特に冷凍野菜の増加が顕著であり、平成27年も12.7%増加した。また、最近の主な冷凍野菜の輸入量（平成18年＝100）の動向を見ると、特に、ほうれん草とブロッコリーが着実に増加している。さらに、輸入単価を見ても最近3カ年は冷凍野菜が特に上昇している。

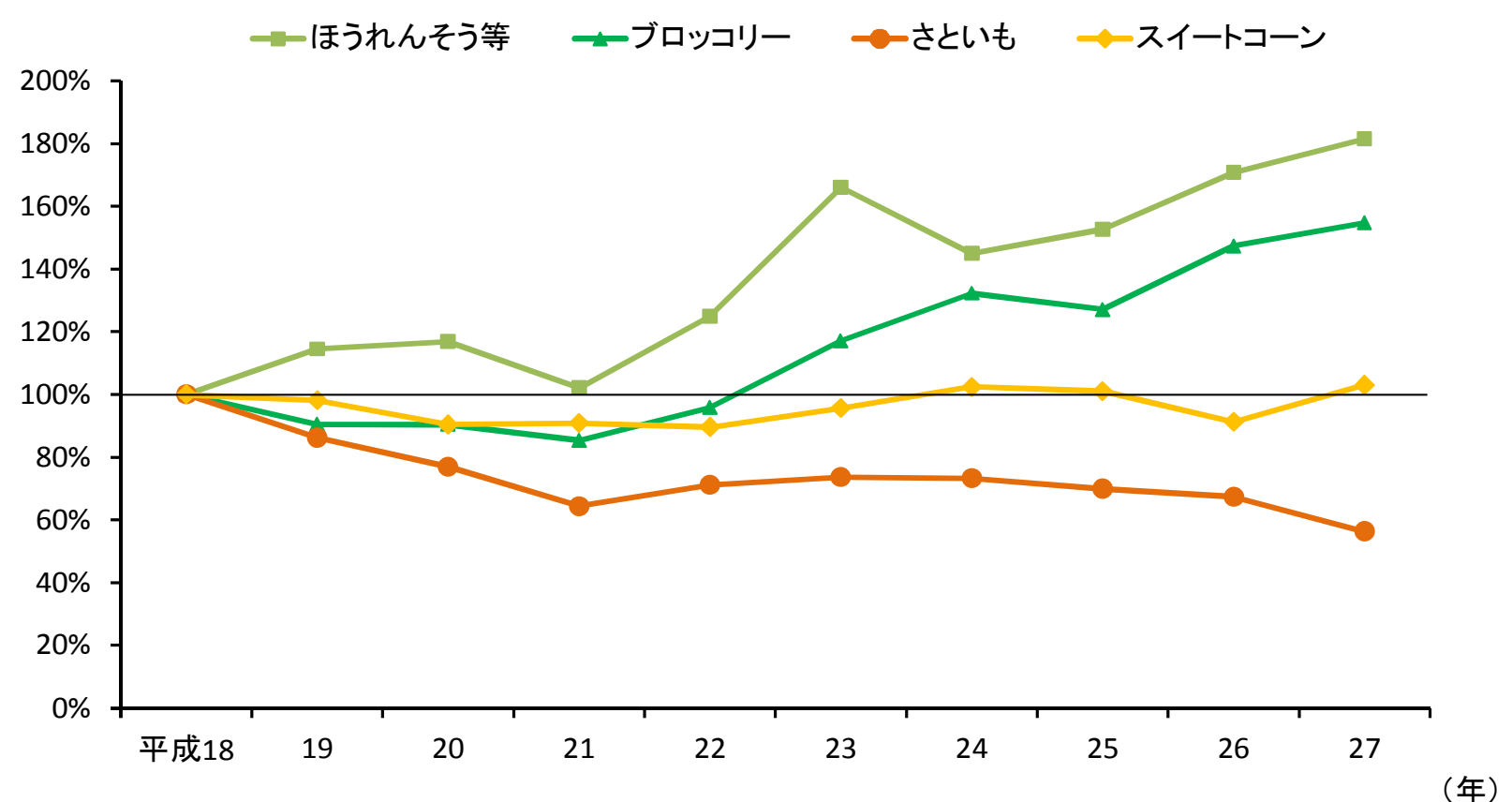
このような野菜輸入における冷凍野菜の増勢には、輸入ウエートの高い中国の労賃、資材費・加工費の上昇、最近の円安等に伴う単価上昇に加え、ほうれん草やブロッコリーなどの加工・業務用等向けの堅調な国内ニーズの存在があるとみられる。

ブロッコリーは国産比率が6割強を占め、ほうれん草も国産冷凍野菜の生産拡大の動きがみられるが、生鮮野菜の輸入代替に加えて、需要が堅調な冷凍野菜の国内供給体制の強化が求められている。

野菜の類別輸入数量の推移(上半期)

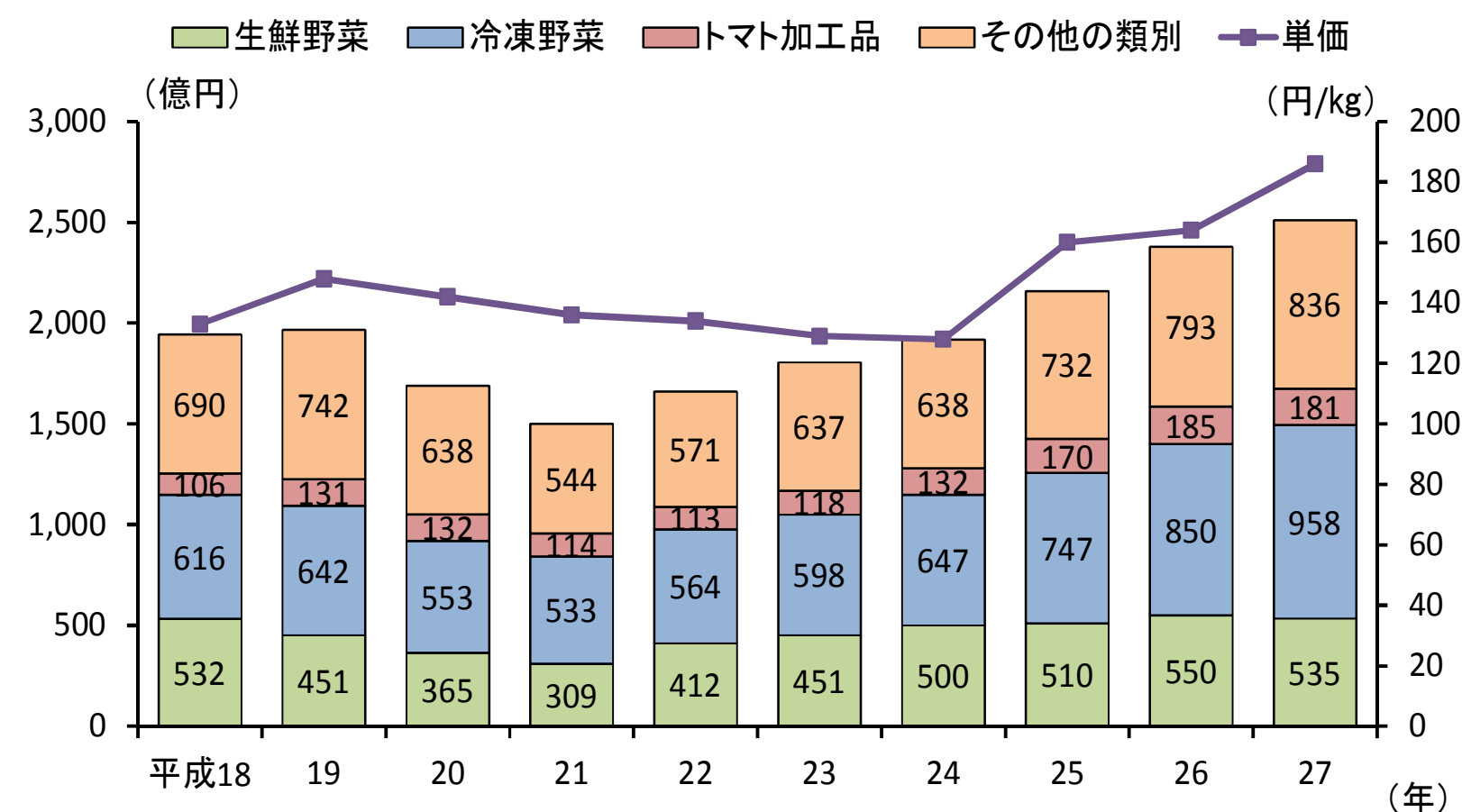


主な冷凍野菜の輸入量の推移(上半期)(平成18年＝100)

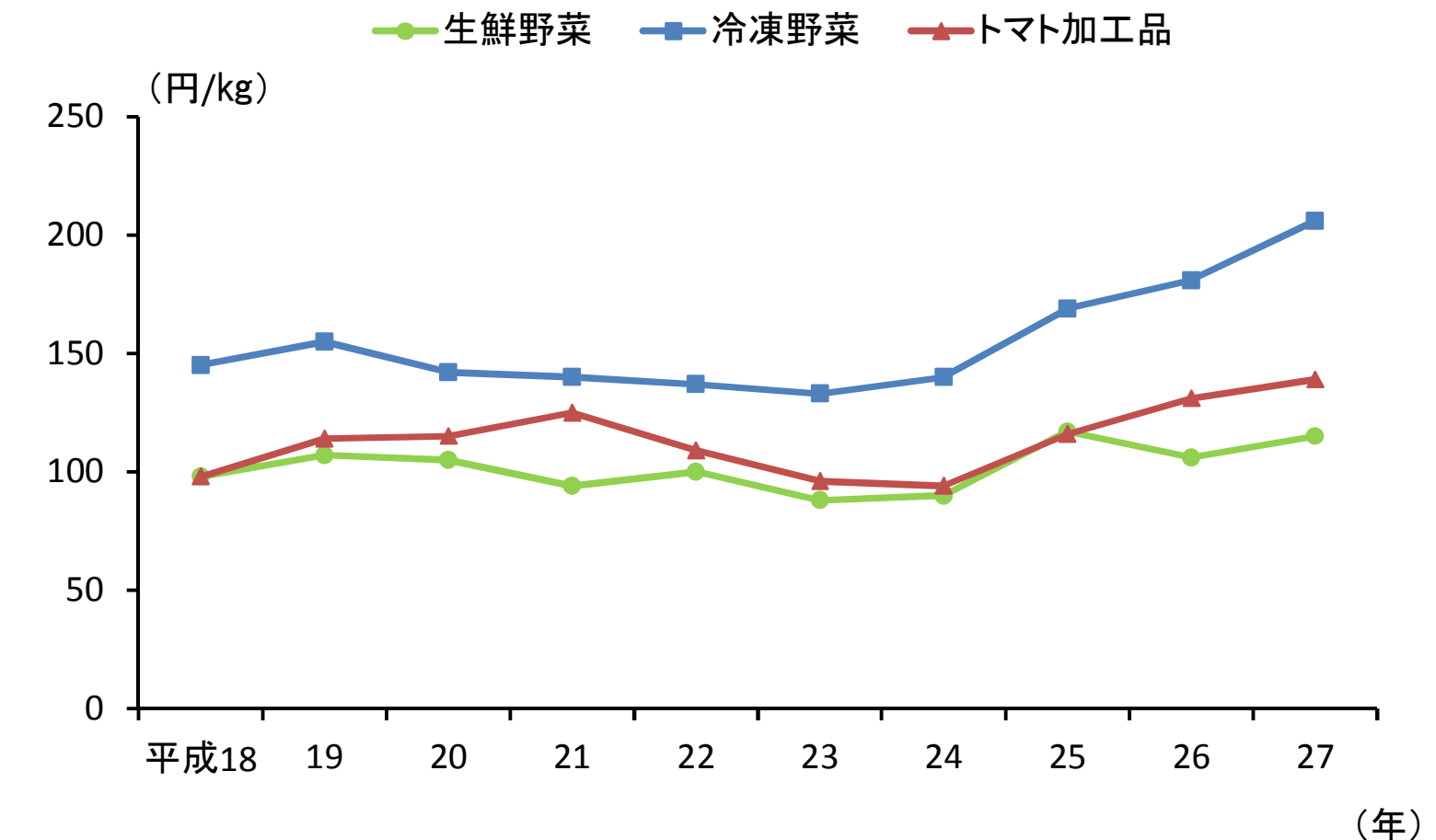


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

野菜の類別輸入金額の推移(上半期)



野菜の類別輸入単価の推移(上半期)



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。

※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。